

次世代型果樹園モデル実証事業

- 果樹では、生産者の高齢化・離農、担い手不足等により産地の縮小が深刻。生産力を維持するには、労働生産性の高い園地・経営づくりが必要。
- 省力・高品質化栽培技術とスマート機器等装備による労働生産性の高い果樹経営のモデル実証を行い、次世代型果樹経営の確立を目指す。

<現状・課題>

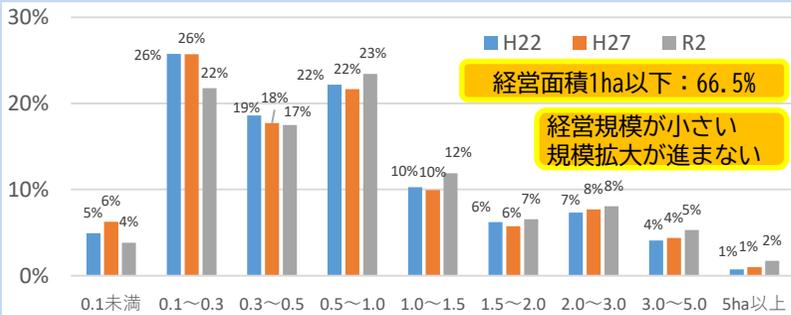
<現状>

- 高齢化による離農、担い手不足、新規参入の困難により産地の縮小が懸念。
- 技術を要する作業や機械化が困難な作業が多いこと、急傾斜で狭小な園地が多いことから、労働生産性が低く、規模拡大が難しい。
- 生産力維持のためには、1戸当たり経営面積の拡大が必須。

<課題>

- 立地条件や品目に合わせた労働生産性の高い園地・経営づくり

規模別経営体割合（熊本県・果樹）（農林業センサス）



栽培面積等の推移 (熊本県果樹振興実績書)

	H23	H28	R2	R2/H23
栽培面積(ha)	10,835	9,082	8,357	77%
生産量(t)	145,190	131,688	129,244	89%
農家戸数(戸)	14,403	12,731	11,965	83%

産地が縮小している

<事業概要>

○事業内容

①平坦地等中晩柑モデル

- ・モデル園の整備（省力・高品質化栽培技術園の整備、スマート機器等の導入）
- ・モデル実証（省力効果検証、経営分析）

②中山間地等なし・くりモデル、平坦地みかん・中晩柑モデル（各1地区）

- ・モデル実証（省力効果検証、経営分析）

○負担割合 ①国1/3、県1/3、事業実施主体1/3

○事業主体 市町村、農業協同組合、農協連等、農業者の組織する団体、農業生産法人

○事業期間 令和4年～令和6年

<イメージ図>

省力・高品質化栽培技術



省力樹形（わい性台木等）
(左：わい性台木 右：従来台木)



不知火類施設栽培

スマート機器等



ドローン

ラジコン草刈機

十
一
体的に整備



ハウス環境モニタリングシステム